マリ

【国名】

「マリ」とはバンバラ語で屈強な「カバ」を意味し，国のシンボルです。

【国旗】

赤：独立のため流された血

緑：牧草地

金：国土が包含する金

【国土】

アフリカ西部に位置し，周囲を７か国に囲まれた内陸国。面積は日本の約 3.3 倍（約 125 万㎢）。首都はバマコ。人口は 1,854 万人です。

【宗教・言語】

●イスラム教，伝統宗教，キリスト教。

●バンバラ族・プル族等 10 余りの黒人部族。加えて白人種のトゥアレグ人・アラブ人。

●公用語は仏語。現地語としてバンバラ語，フルフルデ語，マリンケ語等があります。

【我が国との政治関係】

●我が国は 1960 年 10 月にマリを承認（1960 年 9 月独立）しました。以降在セネガル大使館が兼轄していましたが，2008 年に在マリ大使館を開設しました。マリは 1993 年より在中国大使館が兼轄していましたが，2002 年に駐日大使館を設置しました。

【主要な産業】

●労働人口の 80%が農業に従事し，綿花，米，アワ，キビ等を生産しています。その他の産業は，畜産及び金等の鉱業が中心です。

【豊かな伝統：マリ帝国と黄金】

●マリはアフリカで最も古く（３世紀頃）国家が成立したといわれ，アラブ世界とのサハラ横断貿易で多くの帝国が繁栄した地域でした。実際，7 世紀から 16 世紀にかけて，ガーナ王国，マリ帝国，ソンガイ帝国等の興亡が繰り広げられました。14 世紀カタロニアの世界図に黒人の王の座像と，王に対面する隊商の姿が描かれ，「ムッセ・マリ（マリの王）と呼ばれ，国に産する金が故に最も富裕な王である。」という説明が加えられています。

●乾燥した砂漠地帯に帝国が栄えたのは金等の鉱物資源に負うところが大きく，最近は新たな金鉱脈も開発され，2018 年の生産は約 61 トン（世界 17 位）を記録しました。

【マリ＝平和と安定の回復が最大の課題，日本の支援が貢献】

（治安危機）

広大な国土のうち中部・南部に10余の黒人諸部族，北部に白人（トゥアレグ人・アラブ人）が住む多人種・他部族国家です。

近年，歴史的に分離独立志向の強いトゥアレグ人による武装闘争，イスラム過激派の浸透・テロの続発，さらにこれに触発された中部の部族間抗争の先鋭化が顕著です。国連は，マリ政府・北部武装勢力間の和平合意の実施支援のための約60か国，約1.5万人で構成されるマリ多面的統合安定化ミッション（MINUSMA）を派遣中です。

また，テロ掃討のための仏駐留軍（約1,700名）が展開中であるものの，マリ政府は領土実効支配の空洞化と治安危機の進行を阻止できない状況にあります。

（平和と安定の回復への国際社会の取り組み）

　イスラム過激派組織（アルカイダ系等）が本拠地を置くマリ北部・中部は，域内外のテロの震源地と言われます。マリ，そして近隣サヘル諸国の平和と安定の回復に向け，軍事面のみならず難民・避難民も含む住民への人道支援も含め，国際社会の多くの取り組みが実施中です。

　日本も，2007 年の開校以来行う「マリ平和維持学校」への支援（※ドイツ・オランダに次ぐドナー）をはじめ，マリ政府当局に四駆自動車やバイク等の治安対策機材を供与し，また食料安全保障強化のための食糧援助等，マリの平和と安定のために積極的な貢献を行っています。

（マリ平和維持学校）

　アフリカの平和と安定を重視する日本は，同校の運営理事国としてアフリカでの平和維持活動を担う人材育成を継続的に支援しています。バマコにあるマリ平和維持学校は，西アフリカにおける同分野の人材育成拠点として毎年多くの研修員を受け入れています。日本の支援で「災害リスクマネージメント」や「人権」，「ジェンダー」等の現場に即した研修が行われている他，同校の車両や調理場等設備や機材の拡充についても支援を行っています。

研修を視察する佐藤正久外務副大臣

【文化】

（世界遺産）

●トンブクトゥ：かつてはニジェール川貿易で栄え，「黄金の都」として探検家を魅了しました。有名な探検家には，ヘンリー・バース（独）やルネ・カイエ（仏），またトンブクトゥからメッカまで黄金を運んだというカンクゥ・ムッサ（マリ）等がいます。今もトゥアレグ族がラクダを連れて往来するサハラ砂漠の主要都市です。333 人のイスラム教聖人が町中に埋葬されている等，マリ国内でもジェンネと並び聖なる町とされています。モスクや聖廟を含むトンブクトゥ歴史地区が 1988 年にユネスコ世界遺産として登録されましたが，1990 年には危機遺産として認定されました。

●ジェンネ村：古くからニジェール川の交易で栄え，現在も賑わいます。かつてのマリ帝国の繁栄を彷彿とさせます。商業の中心として，また，トンブクトゥと並んでイスラム文化の中心地としても栄え，13 世紀に完成した石と泥で建造されたモスクは1988年にユネスコ世界遺産に登録されました。

●ドゴン集落：ドゴン族は人口 26 万人と少ないものの，独自の言語，伝統宗教を維持して生活していることで有名です。切り立った崖に穴を穿った集落で生活しており，その風習の神秘性，精神性が欧米でも知られています。大地を創造した神「アマ」，先祖，各氏族のトーテム（動物の守護神），仮面の 4 つを崇拝し，伝統行事を行います。バンディアガラの断崖が 1989 年にユネスコ世界遺産に登録されました。

●これらの他に北部ガオ州にあるアスキア王の墓が 2004 年にユネスコ世界遺産に登録されました。

（ニジェール川）

●マリをほぼ東西に流れるニジェール川は，全長 4,200 キロのアフリカ第三の大河（ナイル川，コンゴ川に次ぐ）です。飲料水，水力発電，洗濯場，沐浴等で住民の生活を支え，独自の文化を育み，交易の品々が行き交った西アフリカの歴史の舞台です。

（食事）

●穀物の粉を挽いて煮固めた「トー」（「ういろう」と「白玉粉」の中間のようなもの）にピーナッツバターを混ぜた各種ソースをかけた料理が一般的です。

トーとオクラのソース

その他，ニジェール川で採れるキャピテーヌや鯉などの淡水魚がマリ人の食卓に並ぶことが多い。

（伝統文化）

●<u>独特の打楽器</u>：タムタムは最もよく知られた太鼓のひとつです。トゥアレグ人が使う「タンデ」は柔らかい動物皮革で，バンバラ族，ソンガイ族のものは貝殻で飾られた瓢箪でできています。同じタムタムでも地域によって名称が変わり，異なる響きを奏でます。

●<u>仮面</u>：民俗芸術ではバンバラ族，ドゴン族を中心にアフリカの仮面文化の伝統が残っています。バンバラ族のお面の「チワラ」と呼ばれるカモシカの面が有名で，これを頭上にのせて祭りの時に踊る風習が今でも残っています。また，ドゴン族にとって宗教的な祝賀において重要な意味を持っています。

（現代アーティスト）

●1980 年代以降，サリフ・ケイタ，アリ・ファルカ・トゥーレ（故人）やロキア・トラオレなどのミュージシャンが世界で活躍している。ブルース・バンド「ソンゴイ・ブルース」は日本でも知られています。

【スポーツ】

（サッカー）

　国民に一番人気のあるスポーツです。学校が終わると空き地がサッカー場になり，小学生の地域対抗試合も行われ，地域振興に役立っています。また，欧州のクラブチームで活躍するマリ人選手も多いです。2019 年２月のＵ－20 アフリカ選手権で優勝しました。

（合気道）

　マリ合気道連盟は，全国に 1,000 名以上の会員を数え，毎年全国大会が行われる等積極的に活動しています。